



# チャイナエアラインの パフォーマンス エクセレンスにおける 最新の MRO の役割



チャイナ エアラインは、実証済みの導入プランと、献身的なベンダーである IFS と社内チームに支えられ、ビジネスパフォーマンスの目標の達成に向けて正しい道を歩んでいます。

## 常に安全第一

チャイナ エアラインにとって、安全を約束することは、最高の顧客サービスを提供するという目標における根本的なファクターです。台湾最大の航空会社として、また非常にダイナミックで競争の激しいアジア太平洋市場で事業を展開する企業として、この分野で業界リーダーとしての評価を高めることは、ビジネス上の必須事項です。チャイナ エアラインのエンジニアリングおよびメンテナンス部門の担当シニア・バイス・プレジデントである Houng Wang 氏は、「私たちは、安全意識をオペレーション、システム、設計、組織に統合し、全従業員が安全意識を持って取り組むようにしました。私たちは、メンテナンス担当者のトレーニングと認証を継続的に評価、監視し、規制への継続的な準拠を確保しています。」と述べています。

## チャイナ エアラインについて

1959年に設立されたチャイナ エアラインは、台湾最大の航空会社であり、2011年9月よりスカイチームの航空アライアンスメンバーとなっています。2017年現在、A350-900、A330-300、777-300ER、737-800、747-400、747-400F(貨物)を含む平均機齢わずか8.1年の84機を運航しています。台北をハブ空港とし、29カ国151都市に就航しています。チャイナエアラインは、全世界で12,562名の従業員を擁しています。子会社にマンダリン航空、タイガーエア台湾があります。2016年の売上は141兆477億3,900万台湾ドルでした。

[www.china-airlines.com](http://www.china-airlines.com)



## メンテナンスソフトウェアの統合が必要

チャイナ エアラインには、レガシーなメインフレームシステムのネットワークがあり、ビジネスを進化させ、新しい効率性を導入するために必要な重要なデータインサイトを提供できないことがよくありました。また、システム同士はほとんどサイロ化されており、さまざまなプロセスで運用されていました。このため、組織全体でタイムリーなメンテナンス情報にアクセスし、共有することが困難でした。「競争が激しい市場では、成功の鍵はコントロール可能な要素、つまりオペレーション効率の向上にかかっていると考えていました。」と Wang 氏は述べて、積極的な成長計画と保有車両の拡大により、現状維持はもはや不可能であると判断しました。そこで、単にトランザクションデータの保存や既存のプロセスの実行にとどまらない、最新の IT ソリューションの模索が始まりました。同社は、エンジニアリング & メンテナンス組織 (EMO) 全体を統合し、構成コントロールとレコード記録を強化し、社内でのカスタマイズを最小限に抑えることを望んでいました。

さらに Wang 氏は、「大幅なコスト削減に加えて、『今』と『過去』の両方について、オペレーションの可視性を高めたいと考えていました。これにより、規制基準への準拠を簡素化できるだけでなく、物事が発生する理由や、予防保全を通じて将来再び発生するリスクを最小化する最善の方法をよりよく理解できるようになります。」と述べています。

## IFS Maintenix™—完全なエンドツーエンドのメンテナンススイート

チャイナ エアラインは、市場で提供されているソリューションを徹底的に調査し、最終的に IFS Maintenix™ を選択しました。Wang 氏は、「ボーイングとエアバスの航空機、および増加するサードパーティのメンテナンスサービスの航空機のメンテナンスとエンジニアリングのための Systems of Record として IFS Maintenix を選択しました。」と述べています。IFS Maintenix は、整備プログラム管理、構成管理、エンジニアリング、プランニング、資材管理、ライン整備、重整備、工場整備の機能を含む、完全なエンドツーエンドのスイートです。

リスクを最小限に抑えるため、IFS Maintenix は 2 つの重要なフェーズに分けて導入されました。「段階的なアプローチにより、レガシーシステムを徐々に切り離し、他のシステム、特に SAP ERP システムとの必要な統合を構築することができました。」と Wang 氏は説明します。「また、新しいシステムに慣れるために時間を必要とするスタッフのチェンジマネジメントを効果的に行うための時間も確保できました。最も重要なことは、適切な間隔で進捗を評価し、結果を測定し、全体的なビジネスプランへの適合性を評価し、必要な修正を実施してから次に進むことができたことです」。

最初の導入フェーズでは、エンジニアリング、プランニング、技術的なレコード管理といったコアコンピテンシーに焦点を当てました。第二段階では、メンテナンスの実行時にデータを取得することで、ラインメンテナンスと重整備イベントのリアルタイム管理への移行をサポートしました。



“

今日までのポジティブな成果を総合すると、決して過小評価することはできません。これまでのコスト削減を加味すると、財務の強化に向けた準備は万端です。

チャイナ エアライン  
エンジニアリング & メンテナンス部門  
シニア・バイス・プレジデント  
Houng Wang 氏

「コンチネンタル航空、フェデックス、大韓航空、日本航空などのグローバルな顧客向けに拡大するサードパーティ MRO サービスなど、当社の事業の成長分野にとって大きなメリットです。」

IFS Maintenix は、資材管理などの専門分野にも拡大しています。例えば、チャイナ エアラインは現在、ASAR(Automatic Storage Automatic Retrieval) と呼ばれる倉庫管理システムを使用しています。ASAR は非常に堅牢で、12 万点以上の部品や材料に関する情報をわずか 50 秒で照会することができます。「この能力を活用するために、我々はこのシステムを IFS Maintenix と統合しました。これにより、完全にシームレスな” ジャスト・イン・タイム” 供給モデルが実現し、競争激化する保守性目標に沿ったタイムリーな部品要求と供給をコスト効率よく実行できるようになりました。」

## 最適化・効率化で得たもの

ラインチェックと A チェックの方法を最適化し、待ち時間を大幅に短縮したことで、航空機が収益を上げるための時間を増やし、格納庫にいる時間を減らすことができました。「これまでに達成されたコスト削減を考慮すると、私たちはより強力な業績を達成するための準備を整えていると言えます。」これは、市場の競争が激化し、航空会社がより少ないリソースでより大きなサービスを提供することを余儀なくされていることを考えると、大きな成果です。

## サービスの瞬間

IFS Maintenix が提供するリアルタイムの後方支援と完全なコスト分析により、チャイナ エアラインは整備コストの管理をさらに強化し、修理の品質と効率を継続的に向上させることができますようになります。

チャイナ エアラインは、EMO を最適化することで、顧客満足度を維持し、ブランドロイヤリティを向上させることができると確信しています。Wang 氏は、「最も重要なことは、業界で最も安全で信頼性の高い旅客・貨物サービスを提供するという、私たちの絶え間ない取り組みを支えることです。」と述べています。

## 導入効果

- ライン管理プロセスの効率性が 10% 向上
- A チェックの配信効率が 3% 向上
- 航空機の定期整備にかかる平均待ち時間を 30 日短縮
- 定期外整備の待ち時間を平均 25 日短縮

## お問い合わせ

詳細は、IFS の Web サイト [ifs.com/ja](https://ifs.com/ja) をご覧ください。お問い合わせは、[info.jp@ifs.com](mailto:info.jp@ifs.com) までメールでお寄せください。

